

一般社団法人岐阜県トライアスロン連合 中長期計画（2025～2030年）

トライアスロン競技の普及と競技力向上を通じて、岐阜県民の健康・地域活性・人材育成に貢献する。

一般社団法人 岐阜県トライアスロン連合
令和7年6月20日

ビジョン（2030年の到達点）



競技人口の底上げと若年層の継続的参加

「トライアスロン文化の定着」



自主財源比率の向上

持続可能な運営体制の確立



「長良川・木曽川中流域エリア」を核とした小規模大会運営

全国から注目される大会の実現



一貫強化体制の構築

ジュニア・国スポ・トップレベル競技者までの育成



課題と現状整理（2025年現在）

会員数減少	コロナ後によりやく160名台に回復
財務体制	法人化・公認コース・HP更改など初期投資で財産減少 企業協賛等の安定した財源確保ができていない
人材不足	スタッフの高齢化による活動出力の低下
国スポ関連支出	離島開催時など補助対象外の出費増加
法人化対応	R6年8月に法人化済。今後の組織運営強化が必要

中長期目標（2025～2030）

会員拡大	会員数200名超を安定化	体験会の定期開催、高校・大学との連携
財務安定	正味財産を年10万単位で積立	協賛制度設計（パートナー制度化） クラウドファンディング、民間補助金の獲得
人材育成	審判10名以上、コーチ資格者3名体制	年1回以上の講習会開催、資格取得補助制度（岐阜県補助制度の活用）
ジュニア育成	ジュニア大会の安定運営と強化合宿	体験→大会→強化合宿の一貫ルート構築
競技力向上	国スポ・全国大会での上位進出	合宿の体系化、外部コーチ招聘・測定会活用
地域貢献	地元開催大会の観光・経済波及効果	地元自治体・企業と大会連携（宿泊・観光情報同封）

年度別重点方針



リスクと対策



リスク	対応策
補助金の減額	年間協賛メニューの再設計、 法人スポンサー制度
人材不足	ボランティア登録制、謝金制度の 見直し（交通費・日当）
財政圧迫	正味財産の目標的積立（年 間運営費分の確保）
競技者層の高齢化	ジュニア層の発掘と保護者向 け体験PR

KPI（目標指標）

200+

会員数

安定的な会員基盤の確立

2+

大会数

年間開催（体験含む）

10+

協賛企業数

正味財産額：年間運営費相当額を社内留保

15+

資格保有者

コーチ・審判資格保有者の育成

